

メジャーリーガーが高鷲学園を訪問

米大リーグ、テキサスレンジャーズで、活躍するダルビッシュ有投手が、2月1日（金）、羽曳野市にある児童養護施設「高鷲学園」に、スポーツ用具（ソフトボールのバット、フットサルのゴールなど）をプレゼントするため訪問しました。

70人の子どもが待ち構える会場は熱気に包まれ、室温は急上昇。ドアからダルビッシュ有投手が登場すると、大きな歓声が上がりました。式典はじめにダルビッシュ有投手は、「テキサスレンジャーズのピッチャーでダルビッシュ有といいます。今日はみんなにパワーをもらいに来ました。」と挨拶しました。



▲子どもたちの質問に笑顔で答えられました

施設から…

高鷲学園の施設長は「ダルビッシュ有さんにお会いでき、みんな大喜びでした。少々の上り下りがあったり乗り越える勇気と希望をいただきました。」と感謝されていました。

ダルビッシュ先輩からのメッセージ

スポーツに取り組む全ての子どもたちへ

「練習がきついでサボりたいと思うこともある。でも、自分に負けずに続けることで将来、きっと自分のためになります。」

開幕前の忙しいスケジュールの合間を縫って、ダルビッシュ有投手が市長室をたずねてくれました。およそ2年ぶりの再会となりました。

彼を育んだ故郷への恩返し、そして未来である子どもたちに託す夢は、メジャーリーガーとなった今も変わることなく、勝利を重ねるごとに「羽曳野市ダルビッシュ有子ども福祉基金」への寄付を続けてくれています。これからもこの基金の活用を通じて、彼の羽曳野の子どもたちへの想いを繋げていきたいと思っています。そんな彼の想いのひとつとして、硬式野球ができるグラウンドの整備について、有投手のお父様であるファルサさん、スポーツ少年団「全羽曳野」の山田監督らをまじえ、



平成 25 年 2 月 1 日「高鷲学園にて」



2月1日、市長を訪問するダルビッシュ有投手と、お父様のファルサ氏

検討委員会を立ち上げ、実現に向けて協議をすすめていただいています。1月からスタートしました「小・中学生スポーツクラブ活動事業」も学校のクラブ活動にはない種目を実施しています。多様な地域スポーツ環境を提供することで、個性を伸ばし、「生きる力」を発揮できる子どもたちの育成を図ってまいります。

羽曳野市長 北川 嗣雄